

所長ごあいさつ

この4月に、岐阜県産業技術センター所長に着任しました服部でございます。どうか、よろしくお願いいたします。

3月に起こった未曾有の東日本大震災、巨大津波、それに伴う原発事故等で被害に遭われた方々に、謹んでお悔やみ、お見舞い申し上げます。

この大震災は、岐阜県の産業界にも大きな影響を与えました。今こそ復活しつつありますが、震災後しばらくはサプライチェーンの断裂で生産をストップせざるを得ない話をよく耳にし、また、イベント等の自粛ムードが蔓延した結果、消費者の購買意欲もかなり低下していたとの情報をお聴きしました。これらの生産縮小の遅れを取り戻すべくこれからと言う時に今度は、中部電力浜岡原発の停止による電力事情の問題が浮上して参りました。震災前の円高基調、さらにその前のリーマンショック等々、次から次へと企業の皆様に難題が降りかかるなか、大いに皆様のお役に立てた案件が工業製品の放射線量測定です。福島第一原発の事故以降、輸出先や取引先から放射線量検査の報告書添付が必要との情報が企業から県にもたらされ、行政と当センター担当部署との調整のなかで検査態勢を素早く構築し、検査を始めたこと（4月8日から受け付け開始。公設試験研究機関としては福島県ハイテクプラザに次いで2番目。）は、多くの企業の皆様に喜んでいただいた、と自負いたしております。



岐阜県産業技術センター
所長 服部 清

産業技術センターは一昨年、100周年を迎えましたが、次の100年につきましても産業界の皆様との二人三脚で歩んでいきたいと思っています。経済の急激なグローバル化、新興国の台頭、地球環境問題、エネルギー問題等々。数え上げればきりがありませんが、企業活動には様々な困難が襲いかかってきます。産業技術センターがそれらの課題にどの程度お役に立てるかわかりませんが、技術の面から皆様に寄り添う形でお手伝いさせていただくつもりです。どんな些細なことでも構いません。自分たちで対応できないことは他の機関や団体、人材等を紹介いたします。まずはセンターにご連絡いただき、センターを心（しん）までご活用いただくようお願いしまして、大変遅くなりましたがセンター着任の挨拶といたします。



【研修生ご紹介】

5月から来年3月まで、当センターにOJTとして研修を行っている伊藤嘉朗さんです。主に研究や依頼試験のサポート業務をしています。当センターで身に付けたことを今後活かしていただきたいと思います。



研修を始めてから2ヶ月経ち、雰囲気には慣れてきたものの、皆さんの科学に対する深い知識に驚かされ続けている毎日です。短い間ですがよろしくお願い致します。

県内企業が製造・販売する工業製品の『放射線量率の測定』を行っています。

東京電力福島第一原子力発電所における事故の影響により、県内企業が製造・販売する工業製品に関する放射線検査を輸出先から求められるという事例が発生していることから、県内産業支援策の一環として、平成23年4月8日から工業製品の放射線量率検査を行っています。岐阜県内に事業所を有する企業が、輸出等に伴う商取引に証明書が必要な場合に検査を行います。

- 【問合わせ先】 環境・化学研究部 村田、横山、足立 TEL.058-388-3151
- 【対象企業】 県内に事業所を有する企業
- 【検査対象】 工業製品 ※ 輸出等に伴う商取引に証明書が必要な場合のみ。食品は対象外
- 【検査料】 無料（1企業5検体まで）
- 【検査方法】 放射線測定装置（GMサーベイメータ）を用いた製品表面の放射線量率を測定
- 【主な検査品】 紙加工品、陶磁器製品、プラスチック部品、刃物、繊維製品、生産機械など



GMサーベイメータ（ALOKA製TGS-121）



測定風景 - 表面から5mmの部位で測定

インターネットにつながる環境であれば、
岐阜県産業技術センターのホームページをご覧ください。

<http://www.com.rd.pref.gifu.jp/iri/>

○報告書の見本が掲載してありますので、海外取引相手にご確認の上、申込ください。

○測定場所：基本は産業技術センター内での測定となります。

〔住所〕 笠松町北及47へ持ち込んでください。

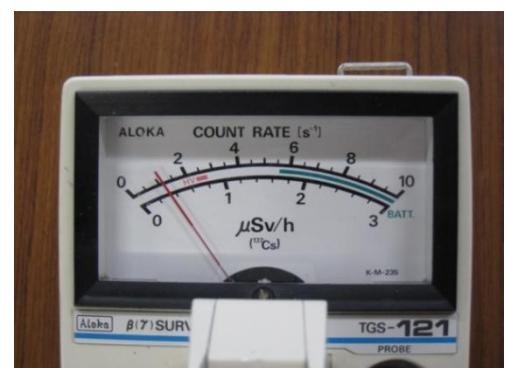
○試験体について

外形寸法：概ね 1m×1m×1m程度（大人二人で運べる程度）

重量：概ね 30kg 程度まで（大人二人で運べる程度）

※粉体・液体については、ポリエチレンの瓶・段ボールに入れたビニール袋等の中に入れて持ってきてください。概ね0.5～2リットル程度

※小さなもの・紙・布等は可能な限り折りたたんだり、梱包した荷姿等で持って来てください。



表示部